

異教徒のパニヒダ

※(主教品の祝福の許、この式を以て異教徒の埋葬式を行うも可。)

輔 君や、祝讃せよ。
司 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
詠 アミン

大聯禱

輔 我等安和にして主に祈らん。
詠 主憐めよ。(以下每次同様)
輔 上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。
輔 此の世を過ぎ去りし「某」の為に主に祈らん。

輔 彼が神の憐を得て、其不信の責めを免れんが為に主に祈らん。
輔 彼が自由と自由ならざる罪の赦を得て、其靈に安息と平安と福樂とを賜るが為に主に祈らん。
輔 我等が諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祈らん。
輔 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ。
司 蓋ハリストス我等の神や、我等を憐みて救う事爾に帰す、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。
輔 アリルイヤ(三次)、主や、爾が選び近づけし者は福なり。
詠 アリルイヤ(三次)
輔 彼(等)の記憶は世世に至らん。
詠 アリルイヤ(三次)
輔 彼(等)の靈は福に居らん。
詠 アリルイヤ(三次)

安息のトロパリ（第五調）

〔附唱〕 主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え
聖人の群は生命の泉と天堂の門を得たり、願わくは我も痛悔を以て道を得ん、我
は亡びし羊なり、救世主や、我を呼び返して救い給え。

〔附唱〕 主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

神の羔を傳え、己も羔の如く屠られて、老いざる永久の生命に移りし聖なる致命
者や、我等に債の赦しを賜わんことを切に祈り給え。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や、光荣は爾に帰す。（三次）

小聯禱

輔 我等復又安和にして主に祈らん。

詠 主憐めよ。（以下每次同様）

輔 又此の世を過ぎ去りし〔某〕の為に主に祈らん。

輔 彼が神の憐を得て、其不信の責めを免れんが為に主に祈らん。

輔 彼が自由と自由ならざる罪の赦を得て、其霊に安息と平安と福樂とを賜んが為
に主に祈らん。

輔 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ。

司 蓋ハリストス我等の神や、我等を憐みて救う事爾に帰す、我等光荣を爾父と子
と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

司・詠 附 詠

神や、我等を憐み、我等を憐み給え。（二次）

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

イルモス第三歌頌

主天の穹蒼の至上なる造成者、教会の建立者、希望の限り、信者の堅め、独り人
を愛する者や、我を爾の愛に固め給え。

司・詠 附 詠

神や、我等を憐み、我等を憐み給え。（二次）

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

イルモス第六歌頌

我^{われ}祈^{いの}りを主^{そそ}の前に注^{そそ}ぎ、我^{われ}が憂^{うれい}を彼^{かれ}に告^つげん、蓋^{けだし}我^{われ}が靈^{たましい}は惡^{わる}に満^みち、我^{われ}が生命^{いのち}地獄^{ぢごく}に近^{ちか}づけばなり、我^{われ}イオナ^{いのな}の如^{ごと}く祈^{いの}る、神^{かみ}や我^{われ}を亡^{ほろ}びより引^ひき挙げ給^{たま}へ。

睿^{さとし}智^ち、肅^{さつ}みて立て、聖福音經^{せいふくいぎょう}を聴^きくべし。

衆^{しゆ}人に平安^{へいあん}。

爾^{なんじ}の神^{かみ}にも。

マトフェイ伝^{まつはいでん}の聖福音經^{せいふくいぎょう}の讀^よみ。

主^まや、光荣^{こうりやう}は爾^{なんじ}に帰^{かへ}し、光荣^{こうりやう}は爾^{なんじ}に帰^{かへ}す。

謹^{かしこ}みて聴^きくべし。

輔 司 詠 司 輔

福 音 (マトフェイ伝 八・五—三)

「彼の時^{とき}イイスス、カペルナウム^{かぺるなうむ}に入りしに、百夫長^{ひやくふうぢやう}彼^{かれ}に就^つきて、求^{もと}めて曰^いえり、主^まよ、我^{われ}の僕^こ癱^{ぢゆう}瘋^{ふう}にて家^{いへ}に臥^ふし、苦^{くる}しむこと甚^{はなは}だし。イイスス彼^{かれ}に謂^いう、我^{われ}往^ゆきて之^{これ}を醫^いさん。百夫長^{ひやくふうぢやう}對^{たい}えて曰^いえり、主^まよ、爾^{なんじ}が我^{われ}の舍^{いへ}に入る^いるは、我^{われ}當^{あた}らず、惟^{ただ}

詠

一言^{いちごん}を出^{いだ}せ、然^{しか}らば我^{われ}が僕^こ癒^いえん、蓋^{われ}我^{われ}人^{ひと}の權^{けん}に属^{ぞく}すれども、我^{われ}が下^{した}に兵卒^{へいそつ}ありて、我^{われ}此^{これ}に往^ゆけと云^いえば往^ゆき、彼^{かれ}に來^{きた}れと云^いえば來^{きた}り、我^{われ}が僕^こに是^{これ}を行^いえと云^いえば行^いう。イイスス之^{これ}を聞^ききて奇^きと為^なし、從^{したが}う者^{もの}に謂^いえり、我^{われ}誠^{まこと}に爾^{なんじ}等に語^{かた}ぐ、イズライリ^{いずらいり}の中^{うち}にも、我^{われ}是^かくの如^{ごと}き信^{しん}を見^みざりき。我^{われ}又^{また}爾^{なんじ}等に語^{かた}ぐ、衆^{おほ}くの人^{ひと}より西^{にし}より來^{きた}たりて、アイラアム^{いらあむ}、イサアク^{いさあく}、イアコフ^{いあこふ}と偕^{とも}に天^{てん}国^{こく}に席^{せき}坐^ざし、而^{しか}して国^{くに}の諸^{しよ}子^しは外^{そと}の幽暗^{くらやみ}に逐^おわれん、彼^{かれ}處^{ところ}には哀^な哭^きと切^は齒^{がみ}とあらん。イイスス百夫長^{ひやくふうぢやう}に謂^いえり、往^ゆけ、爾^{なんじ}の信^{しん}ぜし如^{ごと}く爾^{なんじ}に成^なるべし、斯^この時^{とき}其^{その}僕^こ癒^いえたり。」

主^まや、光荣^{こうりやう}は爾^{なんじ}に帰^{かへ}し、光荣^{こうりやう}は爾^{なんじ}に帰^{かへ}す。

セダレン (第六調)

誠^{まこと}に物^{もの}皆^{みな}虚^{むな}し、生命^{いのち}は影^{かげ}なり、夢^{ゆめ}なり、凡^{およ}そ地^ちに生^なれし者^{もの}は徒^{いたずら}に忙^{いそ}わし、聖書^{せいしよ}に云^いいしが如^{ごと}く、我^{われ}等^ら全^{けん}地^ちを獲^うるも遂^{つい}に墓^ぼに入^いらん、彼^{かれ}處^{ところ}には、諸^{しよ}王^{わう}と貧^{ひん}しき者^{もの}と共^{とも}に在^あり、故^{ゆゑ}にハリストス神^{かみ}や、世^よを逝^さりし爾^{なんじ}の僕^こ（婢^{めかけ}）を安^{やす}んぜしめ給^{たま}へ、

爾^{なんじ}は人^{ひと}を愛^{あい}する主^まなればなり。
唯^{ただ}墓^ぼの上^{うへ}の嘆^{なげき}に歌^{うた}いて云^いうべし。アリルイヤ（三次）

司・詠 附 詠

神や、我等を憐み、我等を憐み給え。(二次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
生神女、光の母を、讃歌を以て讃め揚げん。

イルモス第九歌頌

天は畏れ、地の果ては驚けり、神は身にて人々に顕れ、爾の胎は天より廣きものとなりたればなり、故に神使と人々の群は、爾生神女を崇め讃む。

聖三祝文、至聖三者、主経

誦 聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の過を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

司 詠 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に与え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救い給え。
蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

重 聯 禱

輔 詠 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。
主憐めよ。(三次)

輔 詠 又主に祈る、此の世を過ぎ去りし〔某〕に神の憐を賜わんことを祈る。
主憐めよ。(三次)

輔 詠 又彼及び我等に神の恵をハリストス我が死せざる王及び神に願う。

詠 主賜えよ。
輔 主に祈らん。
詠 主憐めよ。

司 蓋ハリストス我等の神や、我等を憐みて救う事爾に帰す、我等光荣を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

アミン。

詠 主に祈らん。

主憐めよ。

祝文

司 大仁慈なる主宰よ、爾の仁慈はその日を善者と悪者との上に登らせ、雨を義者と不義者との上に降らす、又爾聖なる父の独生子、我が救主イイスス・ハリストスの仁慈はその大恩に背き、彼に敵する者にも及ぶ、故に我等罪人も敢て爾の大仁慈と限りなき仁慈の前に謹み畏れて仰ぎ祈る。主よ、我等当らざる僕婢の祈祷をも聴き入れ賜うて、既に此の世を逝りし〔某〕の霊を顧みて、彼に憐を

垂れて、その自由と自由ならざる諸罪を赦し給え、彼は世に在りし時、爾独一の神に就かず、爾の遣しし救主ハリストスの教会に属せざりしと雖も、敢て殊更に爾に背きし者に非ず、或は未だ爾が救の福音宣伝の日に遭遇せず、或は爾真の主に従う機を得ざりし者なるに由る。故に求む、至仁至善の主よ、彼の霊を憐て爾の福なる生命の慰を与え、彼が死に臨みての痛悔の念をも軽ぜずして是を赦し給え、又若しも彼に一善行だに在りしならば、例えその善行が爾に於ける信仰に基づくものに非ずと雖も、爾の律法に合える善行たる事を嘉して、爾の憐と恵とを之に垂れ給え、我等今此処に熱き望を懷きて爾に祈る、大仁慈の主よ、彼の霊を憐みて其諸の罪と過とを赦し、之を爾の愛する義人等と共に福樂の所に安息せしめ給え、蓋爾は独り我等の恃み、爾は人を憐み救う神なればなり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す神とに光荣を帰す、今も何時も世世に。

アミン。

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、
実の生神女たる爾を崇め讃む。

司 ハリストス神我等の恃や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

詠 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。
福を降せ。

司 ハリストス我等の真の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒
日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救わん、彼は善
にして人を愛する主なればなり。

詠 アミン。

永遠の記憶

輔 主よ、此の世を過ぎ去りし〔某〕を憐み、其自由と自由ならざる罪と過とを赦
し、彼に永遠の記憶をなし給え。

詠 永遠の記憶。（三次）